# 令和7(2025)年度　東筑紫短期大学　教員情報

## 【専攻科】

寺本 普見子（テラモト フミコ）　TERAMOTO Fumiko　保育学科長、専攻科長・教授

| | |
|---|---|
| 所　　属 | 東筑紫短期大学　　保育学科 |
| 担当科目 | 〔保育学科〕<br>・保育内容総論<br>・保育内容総論演習<br>・人間関係<br>・幼児の理解と教育相談<br>・保育・教職実践演習（幼稚園）<br>・環境<br>〔九州栄養福祉大学　こども教育学部〕<br>・人間関係<br>・人間関係の指導法<br>・表現 |
| 専門分野 | ■　教育学 |
| 最終学歴 | 東筑紫短期大学 保育学科 |
| 学　　位 | 短期大学士（保育学） |
| 職　　歴 | あおば幼稚園 教諭　(1973年4月～1975年3月)<br>あおば幼稚園 主任教諭　(1975年4月～1978年3月)<br>長行幼稚園 主任教諭　(1978年4月～1997年3月)<br>長行幼稚園 園長　(1997年4月～2006年3月)<br>長行幼稚園 主事・教頭　(2006年4月～2013年3月)<br>東筑紫短期大学 保育学科 非常勤講師　(2012年9月～2013年3月)<br>東筑紫短期大学 保育学科 准教授　(2013年4月～2016年3月)<br>東筑紫短期大学 保育学科 教授　(2016年4月～現在に至る)<br>東筑紫短期大学 保育学科 学科長　(2018年4月～現在に至る)<br>学校法人　東筑紫学園 評議員　(2018年6月～2025年5月)<br>学校法人　あおば学園 評議員　(2020年3月～現在に至る)<br>幼児教育センター設置プロジェクトチーム　(2023年5月～2024年3月)<br>学校法人　東筑紫学園　九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学地域連携センター連携分野委員　(2023年12月～現在に至る)<br>学校法人　東筑紫学園　専攻科長　(2024年4月～現在に至る)<br>【課程認定委員会における教員審査（単独担当「可」）】　(2025年4月～現在に至る)<br>「人間関係」「人間関係の指導法」「表現」<br>（令和7年度、九州栄養福祉大学　教授） |
| 教育上の業績 | ○1997年より2006年3月まで長行幼稚園園長として、幼児教育の向上を図るとともに地域との連携活動や、各校保育学科の学生実習を受け入れ教職の意義・役割・業務内容を指導・助言。2013年4月より東筑紫短期大学保育学科生に対し、保育経験を通して教育学を指導。 |
| 主な研究活動 | 【論文】<br>1.「保育内容『言葉』と絵本との関係」<br>（東筑紫短期大学研究紀要第46号　(2015年12月）<br>（概要） |

教育実習において学生が用いた絵本を検証.・分析。学生に対するアンケートを基に、絵本の重要性を学生がどのように考え、問題点は何かを検証し、現在の授業を振り返るとともに今後の授業組み立てに繋げるべき研究を行った。

**2.「保育内容『人間関係』子どものケンカの対処法（学生のアンケートを通して）」**
（東筑紫短期大学研究紀要第 47 号　（2016 年 12 月）

（概要）
“保育内容『人間関係』ねらい”の子ども同士で遊びを共有し、共感し合うという中で生じる子どものケンカに対して、保育者がいかに対応するか、子どもへの指導法の研究を行う。

**3.「幼児の理解と教育相談」子どもの片付けについて（学生への授業内容を通して）**
（東筑紫短期大学研究紀要第 48 号　（2017 年 12 月）

（概要）
幼稚園生活では、皆が一緒に過ごすために片付けをすることが必要である。片付けのやり方や必要性に気付き、体験を繰り返しながら、行動できるようになっていくことが大切である。子どもの片付けに対して、子どもに合った言葉がけや対応の仕方を学生のアンケート、アクティブ・ラーニングを通して研究を行う。

**4.「子どもが育つ伝統行事への取組」（学生への授業内容を通して）**
（東筑紫短期大学研究紀要第 49 号　（2018 年 12 月）

（概要）
幼稚園、保育所に就職して行事に遭遇する。保育者は子どもに行事に関して援助、指導を行う。学生が行事に関心をもち、目を向け、行事内容を把握し、時期由来をよく理解していなければ子どもへ伝える事はできない。行事に関して学生がどのように捉えているかアンケートによりを把握し、今後の授業展開へと繋げる研究をおこなった。

**5. アクティブ・ラーニングによる「保育・教職実践演習」の取組（2）**
（東筑紫短期大学研究紀要第 49 号　（2018 年 12 月）

（概要）
本学保育学科学生のアクティブ・ラーニングを指導する中で、本学附属幼稚園園児を対象にいわゆる「ごっご遊び」が幼児の遊びの発展や気づきに及ぼす影響を調査した。「お店屋さんごっこ」を素材に園児が身近な素材に興味をもち、その仕組みや遊びをより楽しくするための工夫がみられことを明らかにした。

**6.「言葉あそびの指導法」（保育現場で使える言葉あそびの習得法）**
（東筑紫短期大学研究紀要第 50 号　（2019 年 12 月）

（概要）
当校の保育内容「言葉」の授業で行った「言葉あそび」、特に「わずかの空き時間で行える言葉あそび」を検討課題とした。保育現場で行っている「言葉あそび」との比較を行うことで学生の指導法に考察を加えた。

**7.アクティブ・ラーニングによる「保育・教職実践演習」の取組（4）**
（東筑紫短期大学研究紀要第 51 号　（2020 年 12 月）

（概要）
教職の免許状を取得するために、学生による個人の課題を明確にし、「研究活動計画書」を作成し、課題解決の方法を提示した。学生の指導は個別に行い、授業内容をまとめた。毎時間アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開、学生が保育士としての確かな実践力を修得する研究となった。

**8. アクティブ・ラーニングによる「保育・教職実践演習」の取組（5）**
（東筑紫短期大学研究紀要第 52 号　（2021 年 12 月）

（概要）
保育・教職実践演習の授業において、アクティブ・ラーニングを取り入れたグループ研究活動を行った。しかし、コロナ禍のため個人研究へと移行したが最終的にはグループによる研究発表を行い、「研究活動計画書」を作成し、課題解決の方法を提示した。その結果、学生が保育士としての確かな実践力を修得する研究となった。

| | |
|---|---|
| | 9. 「子どもの遊び（虫とり）」<br>（東筑紫短期大学研究紀要第 54 号　（2023 年 12 月）<br>（概要）<br>子どもの生活すべてが「遊び」である。その「遊び」によって子どもは多くのことを学んでいる。子どもは遊びを通じて必要な能力を身に付けて成長するものである。遊びの虫とりで図鑑などから虫の名前、飼育方法を知る。虫とりの得意な子どもから親しみをもって聞いたり、話したりコミュニケーションをとる。 |
| 主な社会活動 | 1.【講演会】 |
| | ・「これからの保育に向けて～主任の役割と人材育成について」　（2019 年 8 月）<br>筑豊地方保育協会保育士会主催、会場直方いこいの村にて筑豊地方保育士研修会講演を行う。主任の立場、後輩職員教育の在り方、職場の充実について話す。様々な悩みをもつ主任が、自らの役割を再認識し、職員育成に役立つことを願い講演を終えた。 |
| | ・「出前講義」　（2020 年 3 月）<br>会場：福岡県立中津北高校 2 年生対象で保育に興味がわくように、子どもの保育の誘導の時使う「むすんでひらいて」のシアターを実演、素話もする。幼稚園、保育園（所）・施設の保育形態、所轄、役割・資格などに関して講義をする。 |
| | ・「出前講義」　（2021 年 2 月）<br>東筑紫学園高等学校にて 1 年生を対象として幼稚園・保育所の保育者としての仕事についてアクティブ・ラーニングをした。 |
| | ・「集団で育つ保育」　（2021 年 3 月）<br>築上町築上社会福祉センターにて行われた築上地方保育協会主催、京２０筑保育協会保育士会研究部会研修会の講義を行った。コロナ禍のため、ビデオを使っての研修であった。鼓笛隊編成及び子どもへの指導に関しては実務体験を取り入れての講義を行った。 |
| | ・RKB「タダイマ」の番組内特集「声かけ変換表」紹介コメント　（2021 年 9 月）<br>特集「子育て」の中の「声掛け変換表」の子どもに対して「声かけ」を変えることで子どもの成長にどのような影響があるかのコメントを述べた。 |
| | ・「集団で育つ保育」　（2021 年 10 月）<br>築上町築上社会福祉センターにて行われた築上地方保育協会主催、京筑保育協会保育士会研究部会研修の講義を行った。来年度、ポッポ保育園が研修発表を行う資料の研修の助言を行った。 |
| | ・「出前講義」　（2022 年 3 月）<br>福岡県立小倉商業高等学校にて１・２年生対象に保育学・幼児教育について模擬授業を加えて講義をした。 |
| | ・「出前講義」　（2022 年 12 月）<br>東筑紫学園高等学校にて 1 年生を対象として「子どもの遊び」についてアクティブ・ラーニングをした。 |
| | ・「出前講義」　（2022 年 3 月）<br>福岡県立小倉商業高等学校にて１・２年生対象に保育学・幼児教育について模擬授業を加えて講義をした。 |
| | ・「出前講義」　（2023 年 3 月）<br>東筑紫学園高等学校にて 1 年生を対象として「子どもと関わる仕事」についてアクティブ・ラーニングをした。 |
| | ・「新採幼稚園教諭研修」講師　（2023 年 4 月）<br>北九州市立教育センターにて　63 名の新採用教員の参加者に　テーマ「基礎的素養・幼稚園教育の基本・教師の援助と役割」について講話を行った。参加者はメモを取り、真剣に受講していた。本校の卒業生が多数いて学生の時とは違った受講態度に成長を感じた。 |

| | |
|---|---|
| | ・第 66 回　北九州市私立幼稚園連盟教師研修大会　助言者（2023 年 7 月）<br>第 66 回　北九州市私立幼稚園連盟教師研修大会　第６分科会　こじか幼稚園発表の「つなげよう SDGs に関する保育活動」の助言を行った。SDGs を考える保育の中で日頃から一人一人の子どもに向き合う保育、子どもの主体性を伸ばす保育を心がける事、自分で判断する体験の必要性を考える保育を行うように助言した。 |
| | 2.【子育て支援事業】 |
| | ・子育て支援事業：東筑紫短期大学つくしっこルームにて親子遊び指導　（2015 年 6 月）<br>「親子で作って遊ぼう！！からくりおもちゃ」のテーマで製作をする。帽子を使っての手品で子どもが集中する。絵本「あめぽっつん」で梅雨のイメージをもたせ、紙コップ、色画用紙でカエルを親子で話をしながら楽しくつくる。アジサイの花をつくり、ボールに見立てカエルを倒す遊びへと展開する。 |
| | ・子育て支援事業：東筑紫短期大学つくしっこルームにて親子遊び指導　学生による指導助言（2015 年 7 月）<br>東筑紫短期大学つくしっこルームにて子ども・保護者 60 名（3 日間合計）を対象に行う。保育学科 1・2 年生有志がペープサート・パネルシアター・手遊び・わらべ歌を行った。子どもの年齢にあった内容・事前準備・環境構成を学生が企画し、指導者（寺本）がその内容の調整・誘導方法を助言調整した。子どもとのかかわり方を経験した学生は、今後の実習につながる学びがあったと感想を述べた。 |
| | ・子育て支援事業：東筑紫短期大学つくしっこルームにて親子遊び指導　学生による指導助言（2016 年 7 月）<br>東筑紫短期大学つくしっこルームにて子ども・保護者 35 名（3 日間合計）を対象に行う。対象年齢が低かったため、誘導の途中で子どもの動きに対応することの難しさを学生が経験できた。学生による反省事項においても、その時の指導者の対応を見て、子どもへの誘いがけの言葉などを学ぶことができたと記載されていた。 |
| | ・子育て支援事業：到津文化会館（乳幼児及び保護者子そだて相談学生引率助言）（2017 年 4 月）<br>北九州市立子ども文化会館で催された乳幼児と保護者、および妊婦の「到津子育て相談」に学生が参加し、手遊びや保育を行った。乳幼児の身長、体重測定などを見学、学生は貴重な体験をした。その際、コーナーでの学生の援助指導を行った。 |
| | ・子育て支援事業：東筑紫短期大学附属幼稚園にて親子遊び指導　（2018 年 2 月）<br>「ふれあいあそび」「つくってあそぼう」のテーマでおひな様をつくり遊んだ。保護者より「子どもが興味をもち、楽しんで子どもがつくっていた」「我が子が集中して作っていたのでうれしかった」などの感想が聞かれた。 |
| | ・子育て支援事業：東筑紫短期大学つくしっこルームにて親子遊び指導　学生による指導助言（2018 年 3 月）<br>東筑紫短期大学にて子ども・保護者 23 名（3 日間合計）を対象に行う。保育学科 2 年生有志がペープサート・パネルシアター・手遊び・わらべ歌・絵本読み・リズム遊びを行った。子どもの年齢にあった内容・事前準備・環境構成を学生が企画し、指導者（寺本）が内容の調整・誘導方法を確認助言した。 |
| | ・子育て支援事業：東筑紫短期大学つくしっこルームにて親子遊び指導　（2018 年 10 月）<br>「親子で遊ぼう！」ふれあいあそびのテーマで製作、ふれあい遊びを行った。赤とんぼを作り飛ばしその後ふれあい遊びをした。年齢が違ったが、保護者が、「家ではしない製作遊び、わらべ歌が出来て親子で楽しむことができた」「周りの子どもさんとの関わりできた」「自分の子どもの落ち着きのなさを感じたが、先生からのアドバイスを受けられてよかった」との感想が聞かれた。 |

・子育て支援事業：東筑紫短期大学つくしっこルームにて親子遊び指導　学生による指導助言
（2019年2月）
　東筑紫短期大学にて子ども・保護者（27名）を対象に行う。を行う。保育学科生1・2年生有志がエプロンシアター・手遊び・わらべ歌・ふれあい遊び・大型絵本読みを行った。年齢が低い子どもの危険が伴う行動の援助の難しさを肌で感じた学生が多かった。また、わらべを授業で学生相手に行ったときはスムーズに進んだけれど、実際子どもの前で行うと進め方、説明の仕方が難しかったと感じ、今後の自己研鑽が必要性と述べている学生がいた。2年生が1年生にアドバイスを残すところも見られた。

・子育て支援事業：到津市民センター親子遊び指導　学生による指導助言　（2019年4月）
　地域社会との連携及び社会貢献の一環として到津市民センター主催「こいのぼりまつり」に短大保育学科学生有志7名が参加する。こいのぼりの製作や、様々なイベントの補助を学生が行う。その際の指導助言を行った。終わった後、学生から年齢によって子どもの対応の難しさを感じたとの声が聞かれた。

・子育て支援事業：直方親子遊び指導　学生による指導助言　（2019年10月）
　直方市図書館コミュニティのおがた　小ホールにて直方市主催「図書館こどもまつり」で保育学科生8名（希望者）が親子子育て支援を行った。手遊びパネルシアター、絵本読みを実演した。学校での練習の際は1年生で初めての経験で恥ずかしがる光景があったが、練習を重ねるごとによくなり、直方の実演では堂々と子どもの様子を見ながら声の表情を変えて演じ、達成感を感じたようであった。終わった後、自己反省を行い、指導者の助言も素直に受け入れていた。授業では味わえない子どもや保護者へ支援する言葉がけの学びなどアクティブな活動となった。

・子育て支援事業：東筑紫短期大学つくしっこルームにて子育て支援　（2020年2月）
　「第3回　九州沖縄のこども食堂がつながる研究会 in 北九州」
　本校において、九州沖縄の子ども食堂・こどもの居場所の運営者が研修会を開催した。運営者が語らい・繋がることで、子どもたちや地域の人々が安心して過ごせる居場所づくりを推進し、持続可能な社会の実現に向けての研修会であった。その際、出席者の子どもの支援を行う。7ヶ月の乳児より小学生まで16名で、年齢差があった。製作できる子どもは牛乳パックで「けん玉づくり」を行い、製作したもので遊んだ。その他、ブロック遊びをする子どもなど、楽しい雰囲気であった。

・子育て支援事業：認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園4階子育て支援室　（2021年7月）
　1歳から2歳までの子どもと保護者にてわらべ歌と子育てトークを行った。
コロナ禍、子どもが戸外にて遊ぶことに制限されている現状、子どもが1時間自分のやりたい遊び、また、保護者の子育てに困っていること、楽しいことなどを他の保護者と共有し、相談、助言を行った。すぐに友達の輪に入れなかった子どもが、笑顔で園を後にしてくれた。保護者からこのような機会を継続してほしいとの声が聞かれた。

・子育て支援事業：東筑紫短期大学つくしっこルームにて子育て支援　（2023年1月）
　2歳から4歳までの子どもと保護者にて「子育て・親育ちの会」で製作活動を行った。今年の干支、ウサギの折り紙カレンダーでマジックにて個性あふれる顔を描く。色紙も自分の好きなものを選んだ。教材選び、製作過程にて親子の会話は和やかな雰囲気であった。1 組の保護者が仕事で付き添うことができなかったため、祖父母が参加。笑顔で製作をしていた。孫育てに苦戦し心配されていたので、相談に応じた。

・子育て支援事業：東筑紫短期大学つくしっこルームにて子育て支援　（2023年2月）
　学生と教員で0歳から6歳までの子どもと保護者に、エプロンシアター、わらべうた、大型絵本、触れ合い遊びなどをして、子育て支援を行った。年齢差があったが学生が事前練習を数回行っていた成果が出て、どの子どもも集中して楽しんでいた。保護者から「知らない人のいる中で子どもが楽しそうに参加出来よかった。」「学生さんが笑顔で子ども達と関わってくれてうれしかった」との言葉をいただいた。学生からは、「子どもと保護者との関わりを見てよかった」「保護者同士や保護者と先生が育児相談をしているところをみて勉強になった」との声が上がって、有意義な時間となった。

・子育て支援事業：東筑紫短期大学つくしっこルームにて子育て支援　（2024 年 9 月）
　学生と教員で 0 歳から 4 歳までの子どもと保護者に、エプロンシアター、わらべうた、大型絵本、触れ合い遊びなどをして、子育て支援を行った。2 年生と 1 年生とで行ったので先輩の子どもへの声の掛け方関わり方をみて学びが多かったとの言葉があった。学生が事前練習を数回行っていた成果が出て、どの子どもも集中して楽しんでいた。保護者から「家ではできないあそびを経験できて親まで楽しくなった。」「保育園にかよっていない。学生さんが笑顔で子ども達と関わってくれてうれしかった」との言葉をいただいた。学生からは、「子どもと保護者と話す貴重な機会であった。」「実習前に子どもと関わることが出来てよい経験になった。」との声が上がった。有意義な時間となった。

・子育て支援事業：東筑紫短期大学つくしっこルームにて子育て支援　（2025 年 3 月）
　学生と教員で 0 歳から 2 歳までの子どもと保護者に、エプロンシアター、わらべうた、大型絵本、触れ合い遊びなどをして、子育て支援を行った。事前練習を数回行っていた成果が出て、どの子どもも集中して楽しんでいた。保護者から「泣いていた我が子におもちゃをもってきて接してくれたので、すぐに慣れることが出来ました。」「盛りだくさんの内容で子どもが楽しませていただきました。」との言葉をいただいた。学生からは、「子どもの可愛い反応が見られてうれしかった。」「沢山話しかけたら膝の上に子どもが座ってくれて、コミュニケーションを少しずつ取ることが出来た。」との声があり、大きな学びとなった。

3.【地域社会貢献活動】

・平成 27 年度福岡県私立幼稚園振興協会「第 34 回教師研修会分科会」指導・助言
　（2015 年 7 月）
　第一分科会『子どもの発達とさまざまな保育の実践』のテーマで、でんき幼稚園が発表した。その分科会の助言を行った。事例をあげ援助が必要な子どもに対しての保育者の関わり、言葉がけ等、具体的な事例をあげ、参加教師自身の保育の在り方を見直す研修大会となった。

・第 2 回幼児教育センター設置プロジェクト会議アドバイザー　（2022 年 5 月）
　北九州市立生涯学習 3 階会議室にて、幼児教育センター設置プロジェクト会議アドバイザーとして出席した。

・第 3 回幼児教育センター設置プロジェクト会議アドバイザー　（2022 年 8 月）
　西日本総合展示場新館 3 階会議室にて、幼児教育センター設置プロジェクト会議アドバイザーとして出席した。幼児教育センターの役割・幼児教育に関わる関係行政機関の所轄業務について成案を作成した。

4.【教員免許状更新講習】

・【選択領域】幼児の言葉を育てる子どもと教師の関わりについて（2017 年 8 月）
（幼児の言葉を育てる教師の関わりについて）
　子どもが言葉で表現することの意欲と力をどのように育てるか、その援助のあり方を考えてみる。子どもが絵本を見たり、物語を聞いたりして、言葉の響きや美しさ、楽しさに気づき、未知の世界に出会う。その様々な思いを身近な材料で人形を創作し、その人形を使って遊びを演習する。

・【選択領域】幼児の言葉を育てる子どもと教師の関わりについて　（2018 年 8 月）
　子どもが言葉で表現することの意欲と力をどのように育てるか、その援助の在り方を考えた。手づくり人形を使っての遊びも演習した。

・【選択領域】幼児の言葉を育てる子どもと教師の関りについて　（2019 年 8 月）
　幼児が見たり、聞いたり、おたがいに言葉を交わすことの喜びを経験し、言葉の面白さを知るプロセスについて学習をした。

・【選択領域】幼児の言葉を育てる子どもと教師の関りについて　（2020 年 8 月）
　領域「言葉」の講座は、言葉の面白さを知るプロセスについて人形を作り、それを使って学習する。

| | |
|---|---|
| | ・【選択領域】幼児の言葉を育てる子どもと教師の関りについて　（2021 年 8 月）<br>　領域「言葉」の講座は、身近な材料で人形を創作活用して、言葉の表現力を高める言葉遊びの楽しさを再確認し、言語活動の充実を図ることを教授した。<br>　領域「環境」は周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うための活動について教授した。 |
| | 5.【シニアカレッジ講師】<br>・テーマ「昔の遊び・今の遊び」　（2022 年 8 月）<br>　55 歳以上 19 名の高齢者に「昔の遊び・今の遊び」のテーマで講義をする。教育要領改訂に伴い教育現場での「心の教育」の実践において、遊びを通じて「折れない心」を育む話をした。あやとり・ハンカチ遊び・ルービックキューブなどを行い、今後の大人と子どもの関わりについて考えた。 |
| 所 属 学 会 | 日本保育学会 |
| 受　賞　歴 | 北九州私立幼稚園連盟永年 30 年勤続表彰　（2003 年 7 月） |

ヒロフジ トモユキ
廣藤 智之　HIROFUJI Tomoyuki　准教授

| | |
|---|---|
| 所　　属 | 東筑紫短期大学　　専攻科（介護福祉専攻） |
| 担 当 科 目 | 〔専攻科(介護福祉専攻)〕<br>・人間関係とコミュニケーション<br>・介護の基本Ⅰ、介護の基本Ⅱ<br>・生活支援技術Ⅱ、生活支援技術Ⅲ<br>・介護過程Ⅰ、介護過程Ⅱ<br>・障害の理解<br>・生活支援技術（形態別）<br>・介護実習Ⅰ、介護実習Ⅱ |
| 専 門 分 野 | ■介護福祉学 |
| 最 終 学 歴 | 学校法人　戸早学園　　北九州保育福祉専門学校　　幼児教育科　　（1992 年 4 月～1994 年 3 月） |
| 学　　位 | 専門士 |
| 職　　歴 | 大日精化　広島化工株式会社　（1989 年 4 月～1991 年 12 月）<br>○介護老人保健施設　さくら苑　（1994 年 4 月～1998 年 11 月）<br>○介護老人保健施設　あけぼの荘　（1998 年 12 月～2007 年 2 月）<br>○学校法人戸早学園　北九州保育福祉専門学校　（2007 年 3 月～2018 年 3 月）<br>介護福祉科<br>○生活支援技術（旧 介護技術）担当　（2008 年 4 月～2018 年 3 月）<br>○介護総合演習（旧 実習指導）担当　（2008 年 4 月～2018 年 3 月）<br>東筑紫短期大学　専攻科（介護福祉専攻）准教授　（2018 年 4 月～現在に至る）<br>○生活支援技術Ⅱ、生活支援技術Ⅲ　担当　（2018 年 4 月～現在に至る）<br>○介護過程Ⅰ、介護過程Ⅱ　担当　（2018 年 4 月～現在に至る）<br>○障害の理解　担当　（2018 年 4 月～現在に至る）<br>○介護実習Ⅰ、介護実習Ⅱ　担当　（2018 年 4 月～現在に至る）<br>○人間関係とコミュニケーション　担当　（2022 年 9 月～現在に至る）<br>○介護の基本Ⅰ　担当　（2023 年 4 月～現在に至る）<br>○介護の基本Ⅱ　担当　（2023 年 9 月～現在に至る）<br>○生活支援技術（形態別）　担当　（2024 年 4 月～現在に至る） |
| 主な研究活動 | 【学術論文】<br>**1.「介護実習における記録の指導方法についての再考」**<br>**～‘考える力を育成する’実習日誌の評価・考察の思考過程について～（論文）（単著）**<br>（概要）<br>介護福祉における実習日誌は単なる感想文、反省文等ではなく、‘何故失敗したのか？’‘指導者からの指導・助言にはどういった重要性があるのか？’等について考え、さらに‘このような失敗をするとどのようなことが考えられるか？’といった根拠（エビデンス）を考える＝「考察力」を向上させていく最良の機会となる。この考察の繰り返しにより、考えることへの習慣付けができ、観察力・洞察力の向上、客観的視点での根拠の明確化、想像力（創造力）、危険予測等の専門性の向上が図れるという点について論じた。<br>（北九州保育福祉専門学校　平成 27 (2015)年 5 月）<br>**2.「災害ボランティアにおける現状と課題」**<br>**－ 今、私たちにできること －（論文）（単著）**<br>（概要）<br>暴風雨や洪水等による水災害、地震災害、火山災害等、自然災害の多発する現代の日本において、災害復興の一助となる‘災害ボランティア人材’はなくてはならない貴重な存在となった。そこで、筆者自身が実際の災害ボランティア活動に携わった、熊本地震・九州北部豪雨・西日本豪雨での、被災地における活動内容についての現状を報告するとともに、現在の災害ボランティアの在り方についての課題を明らかにすることを目的として論じた。<br>（東筑紫短期大学 研究紀要 第 49 号 平成 30 (2018)年 12 月）<br>**3.「移動介助技術の教授方法の課題に関する一考察（Ⅰ）」（論文）（単著）** |

| | |
|---|---|
| | （概要）<br>実技の事例問題に基づき、学生が杖歩行、および車いすでの移動介助を実施し評価することで、介助技術の習得度の把握、および危険性を伴う介助場面の分析を行い、今後の生活支援技術における実技指導に活かしていくことを目的として論じた。<br>（東筑紫短期大学 研究紀要 第50号 令和元(2019)年12 月） |
| | **4.「介護福祉士養成課程の変遷に関する一考察」（論文）（単著）** |
| | （概要）<br>翌年2019（平成31）年より、新たな「求められる介護福祉士像」に即し、複雑化・多様化・高度化する介護ニーズに対応すべく介護福祉士養成カリキュラムも見直しが行われることとなった。そこで、「介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」における「5 つの主な見直し事項」をもとに、より効率的・効果的な具体的教授方法、および今後の課題について考察することを目的として論じた。<br>（東筑紫短期大学 研究紀要 第51号 令和2(2020)年12 月） |
| 主な社会活動 | ・福岡県介護保険広域連合豊築支部 介護認定審査会委員 (2012年12月～現在に至る)<br>・特別養護老人ホーム「美咲ヶ丘」職員研修会　講演 (2013年12月)<br>「ささやかな訴えに耳を澄ませて　～対人援助者として求められる専門性とは～」<br>・苅田町障害者施策推進協議会委員 (2014年9月～2016年9月)<br>・障害者支援施設「周防学園」職員研修会　講演 (2016年 2月)<br>「高齢者支援への視点の転換」<br>・熊本地震　災害ボランティア参加 (2016年5月～2016年10月)<br>・介護福祉士養成施設協会 九州ブロック教員研修会委員 (2016年10月)<br>・認知症啓発イベント「ラン伴」参加 (2016年11月)<br>・苅田町社会福祉協議会　講演 (2017年 1月)<br>「熊本震災から見えた『ボランティアの力』とは」<br>・九州北部豪雨　災害ボランティア参加 (2017年 7月)<br>・認知症啓発イベント「ラン伴」参加<br>・西日本豪雨　災害ボランティア参加 (2017年11月)<br>・周望学舎シニアカレッジ　講師 (2018年 6月)<br>・令和元年８月の前線に伴う大雨 災害ボランティア参加 (2018年 9月)<br>・「ふくおかカイゴつながるプロジェクト2019」参加 (2019年 8月)<br>・株式会社よしなが　職員研修会　講演 (2019年10月)<br>「虐待予防・権利擁護について」 (2019年10月)<br>・介護の３つの魅力（「楽しさ」「広さ」「深さ」）を発信する地域別ミニイベント　参加 (2021年12月)<br>・周望学舎シニアカレッジ　講師 (2022年 9月)<br>・台風14号豪雨　災害ボランティア参加 (2022年 9月)<br>・令和５年７月大雨災害ボランティア参加 (2023年7月)<br>・周望学舎シニアカレッジ　講師 (2023年9月)<br>・令和５年度　講師養成研修　講師 (2024年2月)<br>・令和６年度　講師養成研修　講師 (2025年3月) |
| 所　属　学　会 | 公益財団法人　福岡県介護福祉士会 (2011年1月～現在に至る) |

たなか　ふみか
田中 文佳　　FUMIKA Tanaka　　講師

| | |
|---|---|
| 所　　属 | 東筑紫短期大学　　専攻科（介護福祉専攻） |
| 担 当 科 目 | 〔専攻科（介護福祉専攻）〕<br>・社会の理解<br>・介護の基本Ⅰ、介護の基本Ⅱ<br>・生活支援技術Ⅰ<br>・生活支援技術（家事の介護）<br>・介護総合演習Ⅰ、介護総合演習Ⅱ<br>・介護実習Ⅰ、介護実習Ⅱ<br>〔保育学科〕<br>・社会福祉<br>・社会的養護Ⅱ<br>〔九州栄養福祉大学 こども教育学部こども教育学科〕<br>・社会福祉<br>・社会的養護Ⅱ |
| 専 門 分 野 | ■社会福祉<br>■地域福祉 |
| 最 終 学 歴 | 福岡県立大学 大学院修士課程　人間社会学研究科 福祉社会専攻（制度政策分野）　修了 |
| 学　　位 | 修士（社会福祉） |
| 職　　歴 | 学校法人沖学園　沖学園高等学校介護福祉コース　非常勤講師　「社会福祉概論」担当　（1999 年 4 月～2001 年 3 月）<br>福智町役場（当時:方城町）臨時職員のち嘱託職員（社会福祉士）「方城町総合福祉計画」策定及び福祉のまちづくり担当　（2000 年 4 月～2002 年 3 月）<br>学校法人戸早学園　北九州保育福祉専門学校　専任教員　介護福祉科及び介護福祉専攻科にて授業担当　（2002 年 4 月～2011 年 3 月）<br>学校法人戸早学園　北九州保育福祉専門学校　非常勤講師　（2012 年 4 月～2017 年 3 月）<br>西日本工業大学　非常勤講師「総合人間科学」担当　（2015 年 4 月～2017 年 3 月）<br>東筑紫短期大学　専攻科（介護福祉専攻）講師　（2017 年 4 月～ 現在に至る） |
| 教育上の業績 | ・「介護実習の手引き＜東筑紫短期大学専攻科（介護福祉専攻）＞」作成（2017 年度版～2025 年度版　毎年改定）<br>・介護実習施設意見交換会の開催、プロセスレコード演習の取り組み、研究報告会の開催等を通して対人援助の専門性習得に注力している。2017 年度からは県内の介護福祉専攻科の短大と合同で三短大介護職実践セミナーを開催し、保育士資格と介護福祉士資格を有する学生相互の交流、学びの機会を設けている。 |
| 主な研究活動 | 【論文】<br>1.「住民参加における情報提供と情報共有の重要性について」　（論文　発表）（単著）<br>（概要）<br>本論文では、地域福祉の展開における住民参加システムの構築に関する課題について考察を試みた。行政の福祉計画（福祉のまちづくり計画）の事例では、計画に参画する住民の主体性が、多様な情報に影響され得ることを明らかにした。また、別集団におけるアンケート調査においては、ボランティア活動や市民活動への参加と福祉情報量の有無に関連が生じることを示した。これらの結果を踏まえながら地域福祉の展開における効果的な情報発信の方策と情報システムのネットワーク化の課題について言及した。<br>日本社会福祉学会九州部会大会発表（1999 年度）<br>2. 「幼老交流の動向と今後の展望について<br>－ 特別養護老人ホームにおける子どもクラブの事例から －」　（論文）（単著）<br>（概要）<br>1970 年代以降、少子高齢化は急速に進み、家族形態やライフスタイルも大きく変化した。社会状況の変動の渦中で、人々の社会福祉のニーズは多様化、複雑化し、介護福祉や子育ての分野だけではなく、貧困、虐 |

待やひきこもり、孤独化による心身の不調など多岐にわたっている。多変化する社会状況と社会福祉ニーズに如何に向き合うべきか。本稿は、近年広がりをみせている、共生社会を志向した多角的な視点による事業形態の一例として、高齢者施設と小学生の子どもクラブ事業における幼老交流の実践から考察を得るものである。高齢者と児童の分野にまたがる事業展開の意義に関して、世代間交流の重要性とともに地域共生社会の構築における世代間交流事業の必要性について提起した。自助、互助、共助、公助が協働する地域共生社会の実現の中に、現在の社会福祉ニーズが充足され得る可能性を見出している。

東筑紫短期大学研究紀要 第 49 号（2018 年 12 月）

**3. 「介護福祉士の仕事、資格に関するイメージの実態　－ 学生のイメージ調査を通して－ 」**
**（論文）（共著）**

（概要）

高齢化の進展に伴い要介者数が増加の一途である反面、介護福祉の現場では慢性的に人材が不足している。介護職員の人材確保に関しては、現在、外国人労働力の導入をはじめ介護福祉士の処遇改善手当の支給や普 及啓発活動など、国や都道府県を中心として様々な政策が進められている。複雑多様化する要介護者のニーズに専門的にかかわる介護福祉士は非常に重要な存在であるが、介護福祉士を養成する専修学校、短期大学、大学（以下、養成校と略す）への進学を志す学生数は一様に減少傾向が続く状況にあり、教育機関において専門基礎教育を修得した介護福祉士の輩出が現状としては非常に厳しい。

若者が、先々の進路として介護福祉の分野に将来を見出せない要因を把握することは人材確保や社会的役割の認知において必要な視点であると考える。本稿では、本学の学生を対象にした介護福祉士の仕事及び資格取得に関するイメージ調査をもとに、イメージの転換や情報提供のあり方に関する課題について考察をしている。

東筑紫短期大学研究紀要 第 50 号（2019 年 12 月）
（共著　田中 文佳　奥川 満子　廣藤 智之）

**4. 「介護総合演習と介護実習の教育効果について　－ プロセスレコード活用の試み － 」**
**（論文）（単著）**

（概要）

1987 年に社会福祉及び介護福祉士法が制定され、国家資格の介護福祉士が誕生して 30 年を超える。この間、加速する少子高齢化と介護ニーズの多様化のもと介護福祉士の業務内容や義務規定は改正され、その独自性を高めてきたといえる。近年には、介護職の構造改革が示され、多様かつ複雑高度な介護ニーズに対して専門的個別支援を担う役割が明確化された介護福祉士は、介護職の中核を担う人材として位置づけられることとなった。「求められる介護福祉士像」の改正とともに介護福祉士養成課程にも新しいカリキュラムが導入され、介護福祉士の養成課程には専門性の高い人材の育成が求められている。

養成課程においては、科目の履修に止まらずに、専門性習得を目指す教育実践の道筋を明示することが急務の課題といえよう。専門的知識、技術を習得させ得ることは簡単なことではなく、教育活動の創意工夫と研鑽が不可欠である。本稿では、専門性の習得を目指す手法の一端として、介護実習と介護総合演習の科目の連動を通したプロセスレコード活用の教育的効果について検証を試みた。プロセスレコードを用いた実践内容の可視化を主軸として、評価の可視化、反復演習の意義、科目間コーディネートの視点について考察を行い、専門性習得を目指す教育効果の意義を見出した。

東筑紫短期大学研究紀要 第 52 号（2021 年 12 月）

**5. 「介護ロボット及び ICT 利活用の動向と介護福祉士養成の視座」　（論文）（単著）**

（概要）

介護福祉の現場では、近年、ロボットや IOT・ICT 技術の利活用が推進されている。介護福祉士の養成課程のカリキュラムには、現況として ICT 利活用の内容が含まれておらず、新たな介護現場の実働に対する養成教育のあり方が問われ始めている。本稿では、利用者の尊厳を優先し重視する対人援助の学びと、機器を通じた合理的技術の活用に関する新たな学びについて、双方を包摂する教育的視座を探り、パラダイムシフトにおける介護福祉の価値を教授する教育のあり方について考察した。

方策として、介護ロボットや ICT 導入に関する近年の動向の整理とともに学生の意識調査の分析結果より考察を進めている。IOT・ICT 利活用による介護現場の新たな実践の必要性とともに、対人援助の本質と介護福祉の価値を基軸とする教育活動の重要性について結論をまとめている。

東筑紫短期大学研究紀要 第 53 号（2022 年 12 月）

| | |
|---|---|
| | 6.「医療的ケアを必要とする児童の支援に関する一考察<br>－ 保育士と介護福祉士の両資格を有する専門職の意義 －」 （論文）（単著）<br><br>（概要）<br>新生児医療技術の向上により、医療的なケアを必要とする児童の数は増加傾向にある。生まれてくる命をつなぐ高度な医療技術の進歩の一方で、増加する医療的ケア児を支援する環境や体制の整備が遅れている現状が社会的な課題となっている。本稿では、在宅で生活する医療的ケア児のニーズ、とりわけ、年齢に応じた保育の課題と日々の生活における保護者の負担について顕在化を試み、専門職への聞き取り調査から得られた様々な福祉ニーズの分析を通して、医療、保健、社会福祉、教育その他各分野に及ぶ支援体制の構築とライフサイクルを見据えた長期的、断続的な支援を包摂する必要性をまとめている。顕在化したニーズの多様性を踏まえ、医療的ケア児の支援における「保育士と介護福祉士の両資格を有する専門職」の意義を明示し、介護福祉士養成課程（1 年過程［保育士有資格者対象の養成過程］）の重要性についても言及した。<br>東筑紫短期大学研究紀要 第 55 号（2024 年 12 月） |
| | 【学会発表】 |
| | 1.「専攻科における学生募集の展望」 （共同）<br>〈主催〉 日本介護福祉教育学会<br>〈開催場所〉 埼玉県 大宮ソニックシティ<br>〈開催年月日〉 2018 年 2 月 7 日～8 日<br>（概要）<br>わが国の超高齢社会における介護人材の不足は大きな課題であり、厚生労働省では団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年には 37.7 万人の介護人材が不足すると推計している。しかし、介護福祉士養成校への入学者数は年々減少し、本科においても保育学科からの内部進学者数は減少傾向である。本発表では、介護福祉への理解促進や入学希望者の拡大につながる方策について考察を重ねた。方法として保育学科 1 年生を対象とした進学ガイダンスでの試み、アンケート調査、専攻科在学生のインタビュー調査等を分析。結果から、在学生主体のガイダンスの有効性や、保育学科在学生における専攻科に関する認知度と関心度の一致等がみられた。これらの調査結果をもとに、学生募集の展開における今後の課題について考察を行った。<br>第 24 回介護福祉教育学会 大会要旨集： p74<br>（早瀬 亮子　田中 文佳） |
| 主な社会活動 | ・苅田町社会福祉協議会評議員 （2009 年度）<br>・第 4 次苅田町総合計画審議会委員（社会福祉分野） （2010 年度）<br>・「支援者支援シンポジウム」の開催　シンポジスト （2019 年 7 月）<br>主催：NPO 支援者サポート研究会<br>・北九州市立年長者研修大学校 周望学舎 （2019 年 10 月）<br>シニアカレッジ講師<br>・NPO 支援者サポート研究会 （2019 年度～現在に至る）<br>・高齢者見守りサポーター（北九州市社会福祉協議会） （2020 年度～現在に至る）<br>・北九州市障害支援区分認定審査会委員 （2025 年度～） |
| 所 属 学 会 | 日本社会福祉学会 （1998 年～現在に至る）<br>日本介護福祉教育学会 （2017 年～現在に至る） |
| 受 賞 歴 | （○○○○年○月）<br>（○○○○年○月）<br>（○○○○年○月） |

伊藤（イトウ） 元子（モトコ）　ITO Motoko　講師

| | |
|---|---|
| 所属 | 東筑紫短期大学　保育学科　専攻科（介護福祉専攻） |
| 担当科目 | 〔専攻科〕<br>・こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ<br>・発達と老化の理解<br>・認知症の理解<br>・医療的ケア<br>〔保育学科〕<br>・子どもの保健<br>・子どもの健康と安全<br>・〔こども教育学部〕<br>・こどもの保健 |
| 専門分野 | ■看護学<br>■老年看護分野 |
| 最終学歴 | 国立大阪南病院附属看護学校　卒業 |
| 学位 | 専門士 |
| 職歴 | 国立大阪南病院　小児科看護師　(1989年4月～1992年3月)<br>独立行政法人労働者健康安全機構　九州労災病院　(1992年4月～2009年3月)<br>（循環器・脳外科看護師　整形外科師長）<br>前川リウマチ科整形外科クリニック　看護師　(2012年4月～2017年3月)<br>学校法人国際学園　九州医療スポーツ専門学校　(2017年4月～2022年3月)<br>（専任教員（老年看護学領域）　実習調整者）<br>学校法人東筑紫学園　九州栄養福祉大学　保健室　(2022年4月～2024年3月)<br>○学校法人東筑紫学園　東筑紫短期大学　保育学科　(2024年4月～現在に至る)<br>専攻科（介護福祉専攻） |
| 教育上の業績 | ○独立行政法人労働者健康安全機構　九州労災病院にて業務改委員・新人教育委員及び教育委員長を務めラダー教育の実践・指導を行う。 |
| 主な研究活動 | 【学術論文】<br>1. TKA術前オリエンテーション用ビデオの作成<br>『整形外科看護』第13巻11号、メディカ出版　掲載<br>（概要）<br>人工膝関節手術（TKA）手術に関する患者様・ご家族向け説明ビデオの説明。手術の概要やリスク、術前・術後のケア・注意点、入院時の対応など重要項目について解説した。<br>【本人執筆部分の概要】<br>臨床において手術を受ける患者さんの術前オリエンテーションを確実に実施する事は術後の経過に大きく影響する。術前オリエンテーションを行った後、本人やオリエンテーションに同席できなかった家族が何度も動画にて確認できるよう、オリエンテーション動画を作成した。動画中での説明・指導すべき内容の検討と動画作成を担当した。<br>著者：熊野美幸，高鍋和恵，中村こずえ，伊藤元子<br>2. 整形外科における手術前のケア　～患者・家族からのアナムネーゼ～<br>『整形外科看護』第14巻　3号　メディカ出版　掲載<br>概要）<br>整形外科看護師に必要不可欠な術前患者様へのケアについて解説した。<br>在院日数短縮に伴い、必要な情報を不足なくかつ効率的に収集する必要がある。他職種とも連携した術前準備の方法について解説した。<br>【本人執筆部分の概要】<br>本人・家族に対して、基礎疾患や既往症、内服薬の確認についての聴取方法。聴取時のプライバシー保護や話しやすさに配慮した環境調整について。入院に際しての心配事や退院後の生活につ |

| | |
|---|---|
| | いてキーパーソンも交えてのアナムネ聴取部分を担当した。<br>著者：伊藤元子、古沢成美、小松原真弓、池庄司和子） |
| | ３．協同学習を基にした「認知症の理解」のルーブリック作成<br>～介護福祉士養成１年課程の課題に着眼して～<br>（概要）<br>高齢化の伸展とともに労働者人口が減少するなか、介護人材はますます重要な存在となっている。介護福祉士の受験資格は３年以上の実務経験を有する者が実務者研修を修了するルートや福祉系大学や養成校、福祉系高等学校での履修、経済連携協定（EPA）など多岐にわたる。養成校においては、2年から４年課程が大半を占めるが、本学は保育士資格を有する学生が専攻科として１年間での資格取得となる。そこで、身近に高齢者や認知症の方と接する機会の少ない学生がより効果的に高齢者ケアの知識を習得するため、科目「認知症のケア」を特定課題とするルーブリックを作成した。<br>実習で実際の利用者との関わりやドキュメンタリー視聴での学びをテーマに協同学習を実施し抽出された、本学学生の認知症の理解状況や不足している視点をルーブリックの項目に加えた。<br>今回はフーブリック作成のみで活用と検証がなされていたいため、活用と改善が課題である。<br>東筑紫短期大学紀要　第55号　（72025年12月） |
| 主な社会活動 | ・北九州市立年長者研修大学　周望学舎　シニアカレッジ講師　（2024年10月）<br>「認知症の種類・症状とその対策」 |